

仕掛学を利用してペットボトルの分別を推進する

大阪教育大学附属高等学校平野校舎1年 塚本梨々花, 中陳裕晴, 田中萌

【背景】ペットボトルは焼却処分するよりリサイクルした方がCO2の排出量を減らすことができる。しかし、分別されずに廃棄されるペットボトルはリサイクルの妨げになる。

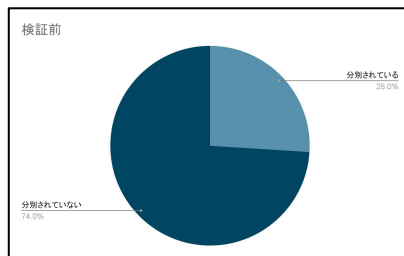
【目的】ラベルと本体が分別された状態のペットボトルの継続した回収率を上げる。キャップは学校内での回収を行っていないため今回は検証の範囲外とする。

【実際に行った検証】

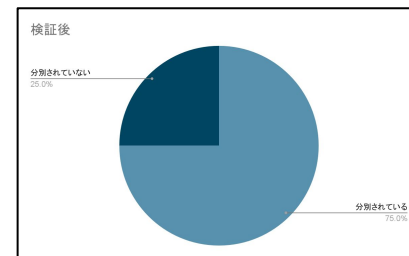


ペットボトルのラベルの色を利用し、ラベルを入れていくことで虹ができる。

【結果】



2022/11/12~26 31本



2023/2/6~10 5本

【考察】

結果として分別率は上がったが、検証できた期間が少なかったことと、回収できたペットボトルの本数が少なかったことから継続した分別が可能とは言い切れない。